

事業者達成状況報告書



2019年 7月 30日

鳥取県知事 平井 伸治 様

届出者 住所 岡山県岡山市中区海吉2075

氏名 オムロン スイッチアンドデバイス株式会社
代表取締役社長 中村 憲治
(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

鳥取県地球温暖化対策条例第8条第5項(第9条第3項)の規定により次のとおり提出します。

住所(主たる事業所の所在地)	鳥取県倉吉市巖城1005									
氏名(名称及び代表者の氏名)	オムロン スイッチアンドデバイス株式会社 倉吉事業所 代表取締役社長 中村 憲治									
主たる業種										
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 鳥取県地球温暖化対策条例施行規則第4条第1号に該当する特定事業者 <input type="checkbox"/> 鳥取県地球温暖化対策条例施行規則第4条第2号に該当する特定事業者 <input type="checkbox"/> 鳥取県地球温暖化対策条例施行規則第4条第3号に該当する特定事業者 <input type="checkbox"/> 特定事業者以外の事業者									
計画期間	平成28年4月 ~ 平成30年 4月									
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度(実績) (平成28)年度 (二酸化炭素換算)	目標年度(計画) (平成30)年度 (二酸化炭素換算)	増減率	報告年度(実績) (平成30)年度 (二酸化炭素換算)	増減率				
	排出量(1)	8,308.1 t	8,055.0 t	△ 3.0 %	7,435.7 t	△ 10.5 %				
	実績に対する自己評価	個別空調機の更新、変圧器の入替、照明器具LED化等実施、電力会社契約先変更しCO2の削減に繋げた								
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度(実績)	目標年度(計画)	増減率	報告年度(実績)	増減率			
	倉吉事業所	二酸化炭素換算生産数	0.01771 t CO2/万個	0.01717 t CO2/万個	△ 3.0 %	0.0191 t CO2/万個	7.8 %			
		二酸化炭素換算			%		%			
		二酸化炭素換算			%		%			
実績に対する自己評価	生産ラインの移管等により原単位は悪化									
寄与的取組	取組区分	目標年度(計画)			報告年度(実績)					
		実数値		二酸化炭素換算の削減量	実数値		二酸化炭素換算の削減量			
	再生可能エネルギーの利用による電力又は熱の供給	(売電量)	kWh	t	(売電量)	kWh	t			
		(熱供給量)	GJ	t	(熱供給量)	GJ	t			
	再生可能エネルギーの利用による二酸化炭素の排出削減の量等を表すものの購入	(購入量)		t	-	-	t			
	森林保全による二酸化炭素の排出削減の量等を表すものの購入			t			t			
	電気、ガスその他のエネルギーの使用の合理化による二酸化炭素の排出削減の量等を表すものの購入	(購入量)		t	(購入量)	GJ	t			
削減量等合計(2)			0 t			t				
差引排出量(1)-(2)	基準年度(実績)	8,308.1 t	目標年度(計画)	8,055.0 t	増減率(計画)	△ 3.0 %	報告年度(実績)	7,435.7 t	増減率(実績)	△ 10.5 %
	推 進 体 制 エネルギー管理委員会を設置して、省エネルギー施策の検討、実施をしている。									
年度ごとの具体的な取組及び措置の計画	年度	設備、対象、工程等	内容							
	平成30年度	変圧器	3Φ500KVAをトッランナー変圧器に更新 △4KL/年削減							
	平成30年度	照明	2号館、試験棟、ライフテスト棟 照明LED化(265台) △2.5KL/年削減							
	平成30年度	空調機	6号館個別空調機更新 2台 △4.6KL/年削減							

地球温暖化対策に資する社会貢献活動	・出張時の公共交通機関の利用促進の継続 ・エコボラン活動を実践（アイドリングストップ、不要時の消灯・電源OFFの励行等）
特記事項	

- 注1 該当する□には、レ印を記入してください。
- 2 本計画書における温室効果ガス排出量は地球温暖化対策の推進に関する法律第21条の2第3項に規定する「温室効果ガス算定排出量」の算定方法と同様の方法により算定した量をいいます。
- 3 本計画書は鳥取県内における事業活動について記載してください。
- 4 主たる業種には、統計法（平成19年法律第53号）第2条第9項に規定する統計基準として定める日本標準産業分類のうち中分類を記入してください。
- 5 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度をいいます。
- 6 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、○○工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（生産数量、延べ床面積、走行距離等）を記入してください。
- 7 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比や省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達を採用などを記入してください。